

6月号の目次

レジャー 2・3面

- 悠遊 鉄道の旅
埼玉県・長瀬町



- ぶらっと東京街角
ミュージアム

健康 4・5面

- 新口コモをとめよう
- 心臓 パートⅣ「異端児」
- 健康クッキング

カルチャー 7面

- この人と1時間



新津 春子さん

特集 8・9面

- 未来遺産
玉川上水の魅力
- 逸品「凍みコンニャク」
- 映画・音楽

生活 10・11面

- Sports 輝きの記憶
- 新司法八方 弁護士の日
- 万葉のこころ
- 景気の道しるべを読む
- 昭和の風景
- 下重曉子の出会ったひとと

東京新聞/駅前界隈 13面

- 紙面が語る 衝撃のあの日
- 駅前界隈
「京急線六郷土手駅」

読者参加 14・15面

- 脳トレ ひろば
- …シークワーズ
- …おもしろパズルの古今東西
- …あぁ漢ちがい
- …楽しい俳句

首都圏 16面

- 名水紀行
「白幡沼」

今月のプレゼント14面

年々彩々

那須波切不動尊火まつり

無病息災を祈願して「火渡り行」などの荒行をする「那須波切不動尊火まつり」が六月二十八日、栃木県那須塩原市沼野田和の金乗院境内で行われる。



絵・杉浦 孝明

無病息災願う火渡り行

金乗院は高野山真言宗関東三霊場の寺院で、修験者の荒行で知られ、恒例の火まつりは毎年、六月二十八日に実施される。火まつりは午前十時三十分すぎから、同院ご本尊の不動明王と滝の前で行われる。参拝客などが見守るなか、ほら貝が鳴り響くと、山伏姿の修験者たちが入場し、作法、儀式にのっとり、作法、護摩壇に点火され、天にも昇るような炎と、煙に包まれながら読経。まず、熱湯のかまに入る「湯

加持行」があり、次いで、燃える松明を衣の袖に通す「松明行」、護摩壇の灰の上を素足で渡り歩く「火渡り行」などの荒行が披露される。一般参加の火渡りも実施され、参加者には菓師茶のサービス。火まつりのあとは、本堂前で「餅まき」が行われ、参拝者などが賑わう。

金乗院へはJR東北新幹線・那須塩原駅からタクシーで約5分。問い合わせは、同院TEL0287-651-0076

「天災」は空から音もなくやってくる。過日仲間と三浦半島の小さな旅を楽しみ、海に近い原っぱで弁当を広げていたら突然目の前を黒い影が駆け抜けた。あれ何だろう。そう思った次の瞬間、再び黒い影がよぎり仲間の女性

これが天災の速攻。みんな怒りながらも感嘆して「いやあすげえ」。あんな私から揚げ、消えちゃった「私のソーサー」

聞けば同じ被害が相次いでいるとか。昔から「トンビに油揚げ」というのが最近「トンビ」から揚げか。皆さんも野外弁当ではくれぐれも頭上に注意を。

(哲)



見上げるとすぐ上空に獲物を狙うトンビが何羽も悠々と飛ん